

平成31年度 東京都立足立西高等学校経営報告

校長 加藤 泰弘

平成31年度は、生徒の学力定着と向上、授業改善、キャリア教育の充実等を目標とした「東部学校経営支援センター特別指定校（以下、センター指定校）」2年目となり、昨年度の課題改善を踏まえ、取組に尽力した。具体的には相互授業参観、業者を活用した校内研修の充実、生徒の授業評価アンケートを活用した授業改善の取組、ICT教育に取り組む先進校の視察、模擬試験及び検定試験の受験推進、成績との関連性を示したデータを示すことによる家庭学習推進の取組、BYODの推進等である。同時に今年度はセンター指定校に対するアドバイザー会議の充実等、支援センターの積極的な支援もあり、数値目標が達成できなかった等の課題を残したものの、取組内容の多様化、充実化が図れた一年だった。

募集対策は昨年度に引き続き、パンフレットの工夫、PR動画の作成とともにツイッターでの情報発信に力を入れた。生徒の学習活動や特別活動の様子を写真に撮ってツイッターに掲載する際は生徒も積極的に協力してくれて、親しみのあるツイートが続けられている。台風による説明会の中止があったものの、説明会や相談会の来場者数は昨年度を上回り、インターネット効果を実感することができた。入学者選抜の応募者数は推薦選抜の倍率が降下した一方で、一次学力選抜は女子が過去8年で最高倍率を記録し、女子人気の高さを実感することとなった。だが、男子の応募者数は過去8年で初めて100名を下回り、男子の倍率向上が大きな課題となった。

学校を特色づける取組として力を入れたのはボランティア活動と国際交流である。

ボランティア活動は参加件数、参加人数ともに昨年度比約60%増となり、大きく向上した。昨年度同様に小学生の通学見守り、保育園支援、地域イベントへの出演の他、子ども食堂支援は生徒会が中心となって通年で行い、足立区から交通安全見守り隊を実施した野球部とともに表彰された。

国際交流は、交流を推進、支援する外部機関との連携により、韓国の高等学校との生徒交流会の実現、韓国人講師を招いた料理教室の実施の他、ドイツ、フランス、中国等、英語圏以外の国の文化に触れることを目的とした特別講座の実施等、様々な取り組みを進めた。年度末にプロジェクトチームを組織し、次年度以降の取組に向けて検討を進めている。

来年度は生徒の表現力を高める授業の充実、募集対策に絡めたPR活動の強化、国際交流の推進を柱に一層の取組を進めていく。

今年度の取組目標と成果及び課題

取組目標と方策	成果と課題
<p>【学習指導】</p> <p>(1) 意欲的、主体的に取り組める授業の確立</p> <p>ア 必要な知識の伝授と理解を前提にアクティブラーニングの手法を取り入れ、生徒が主体的に考え、表現する授業を展開する。</p> <p>イ チャイム始業、居眠り防止の徹底を図る。</p> <p>ウ 少人数授業、体育祭、マラソン大会等を活用し、基礎体力の向上を図る。</p> <p>エ ICT機器や視聴覚教材を効果的に活用し学習意欲を喚起すると共に理解を支援する。</p> <p>オ 質の高い授業準備により学習環境をさらに向上させ、基礎学力の定着を図る。</p> <p>カ 数学と英語において習熟度別授業を、体育において日本の伝統教育を踏まえ、少人数授業を実施する。</p> <p>キ 本校独自の特進システムを活用し、生徒の希望進路実現を支援する。</p> <p>ク 学カスタンダードを活用した目標を設定し、授業内容の共通化を図る。</p> <p>ケ 各教科の授業においてオリンピック・パラリンピックに関連した内容を実施する。</p> <p>コ 読書指導に力を入れるとともに、NIEに積極的に取り組み、知識と教養の向上を図る。</p> <p>(2) 学習内容の定着、学習意欲の向上、学習習慣の定着</p> <p>ア 授業方法の改善等により、学習内容の定着を図る。</p> <p>イ 小テスト、週末課題等の工夫により家庭学習を定着させる。</p> <p>ウ 課題発見型の学習体系について検討し、実践する。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>(1) 組織的な生徒指導の推進</p> <p>ア 遅刻激減を目指し、授業時間管理の一層の徹底を図る。</p> <p>イ 身だしなみ指導、遅刻指導は生徒部主導の下、全教職員で取り組む。</p> <p>(2) 安全指導の徹底</p> <p>ア 情報リテラシーの向上のための指導を外部機関の活用も含めて徹底する。</p> <p>イ 自転車利用に係る交通法規遵守指導の徹底を図る。</p> <p>ウ 登下校時および校内安全確保のための多面的な指導を実施し徹底する。</p> <p>(3) 生徒支援体制の充実</p> <p>ア 組織的な生徒の支援体制を一層充実させ、生徒の多様な課題に適切に対応する。</p>	<p>【学習指導】</p> <p>《成果》</p> <p>生徒が主体的に考え、表現する授業は、体育が生徒に活動計画書を作成させたり、自己評価を発表させたりする時間を設ける、美術が作品のプレゼンテーションを実施するなど、座学のみならず、実技科目にも広がってきた。</p> <p>教員の授業改善は、センター特別指定校の予算を使って外部委託した、生徒による授業評価アンケートが2年目となり、個別に経年変化を見られるようになったことによって課題が明確になり一層進んだ。</p> <p>ICT機器の活用において、複数の教員がBYODを取り入れ、生徒の意欲を引き出し始めた。他県の先進校視察も実施し、校内で共有することで取組を喚起した。</p> <p>読書指導は司書教諭、委託司書が連携して図書を紹介、陳列の工夫を重ね、利用者の拡大につなげている。</p> <p>《課題》</p> <p>授業改善が個々の教諭の努力だけではなく、教科ごとに組織的に進めて行く必要がある。まだ十分と言える状況になく、今後さらなる取組を進めていく。</p> <p>生徒の基礎学力の向上、学んだ内容の定着を進める取組は各教員が取組目標として意識することにより徐々に進んでいるが、次年度の大きな課題の一つとして認識しなければならない。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>《成果》</p> <p>生徒部が各学年を主導する体制はほぼ整った。生徒部と学年が連携して指導を継続することにより、特別指導件数も昨年度同様少なく、落ち着いた環境が維持されている。</p> <p>生徒の支援体制については、教育相談委員会をはじめとして、一人一人に対する手厚い指導が行き届き、全校生徒数の少ない「小さな学校」のメリットが生かされている。</p> <p>《課題》</p> <p>遅刻が減らず、むしろ増える傾向にあり、大きな課題となっている。解決策も頭打ちで効果的な改善方法が見当たらない。抜本的、劇薬的な指導を踏まえた組織的な改善が必要不可欠である。</p> <p>生徒の相談件数が増え、深刻な悩み相談が目立</p>

<p>イ 養護教諭を中心とした教育相談委員会を充実させるとともに、スクールカウンセラーと連携し、校内研修等で教員のスキルアップを図る。</p> <p>【キャリア教育】</p> <p>(1) キャリア教育の組織化・計画化</p> <p>ア 総合的なキャリア教育の組織的な実施体制確立に取り組む。</p> <p>イ 総合的な探求の時間(「人間と社会」)、総合的な学習の時間及びHRの活用に組織的に取り組む。</p> <p>ウ インターンシップは1学年全員を対象として実施する。</p> <p>エ 模擬試験、検定試験の受験について計画的に指導していく。</p> <p>オ 個人カルテを導入し、生徒の学力向上及び進路指導の充実等に活用する。</p> <p>(2) 進路指導の質的向上</p> <p>ア きめ細かく生徒・保護者への面談等を実施し、個々の生徒への理解と支援に努める。</p> <p>イ 生徒の進路希望確定は遅くとも2学年末となるよう指導する。</p> <p>ウ 大学進学希望者には外部試験の利用や一般受験での進学を目標とさせるが、自分の希望学科と一致する場合はAO及び公募推薦等の受験も支援する。</p> <p>エ 安易に専門学校を選択させないという前提で指導を進めていく。</p> <p>オ 就職希望者には外部機関と連携し、本人の希望と適性に応じた就職先を決められるよう支援する。</p> <p>【特別活動】</p> <p>(1) 部活動の活性化</p> <p>ア 「部活動に関する活動方針」の趣旨に基づき適切に運営する。</p> <p>イ 加入率及び定着率の向上を目指した取り組みを実施する。</p> <p>ウ 運動部、文化部ともに生徒が意欲的かつ主体的に活動できる環境を維持する。</p> <p>エ ホームページ、ツイッターを活用し、活動実績をアピールする。</p> <p>オ 部活動、生徒会による地域交流並びに地域貢献活動の充実を図る。</p> <p>(2) 学校行事</p> <p>ア 体育祭、文化祭を中心に生徒主体の行事企画運営を推進する。</p> <p>イ 生徒の安全を第一とした行事運営を原則として検証と改善を図る。</p>	<p>つ中、スクールカウンセラーの多忙状態が慢性的に続いている。支援センター等と連携して改善に努める必要がある。</p> <p>【キャリア教育】</p> <p>《成果》</p> <p>キャリア教育計画の図示により、本校への入学を目指す生徒、保護者に対して分かりやすいものとなった。さらに年間の進路計画が具体的に示され、全教員が共有できるようになった。</p> <p>個人カルテが完成し、学年ごとのケース会議に活用した。成績から特別活動、特別な支援が必要な状況まで1頁にまとめられ、圧倒的な一覧性の向上により、情報共有が高度に図られた。教育庁指導部にも認められ、範例として活用される見込みである。</p> <p>進路指導は面談週間の効果的な活用、綿密で組織的な生徒指導が功を結び、希望進路の早期決定が実現するとともに進路決定率が前年度比10%増の94.6%を達成した。また、進路指導主任が中心となって進学指導のための研修会を複数回実施するなど、教員の資質向上を図ることができた。</p> <p>《課題》</p> <p>インターンシップは生徒の満足度90%以上を維持しており学習効果が高い反面、担当教員の負担も大きく、作業分担及び効率化が慢性的な課題となっている。</p> <p>成績優秀な生徒が進学先の大学を、指定校推薦を受けた中から選択する傾向にあり、一般受験の割合が下降している。</p> <p>【特別活動】</p> <p>《成果》</p> <p>「部活動に関する活動方針」に基づき、部活動の最大延長時間の短縮化を図った。</p> <p>加入率、定着率は上昇傾向にあり、体験入部の義務付け及びホームページやツイッターにおける活動実績の紹介が前年度に引き続き効果的に機能している。</p> <p>ボランティア活動において、部活動単位での参加が顕著になった。特に生徒会が意欲的に活動し、野球部とともに地域から表彰された。</p> <p>《課題》</p> <p>部活動の加入率は微増にとどまっており、更なる活性化が課題である。</p> <p>行事における生徒主体の運営は発展途上であり、生徒及び教員双方の意識改革が求められる。</p>
--	---

ウ オリンピック・パラリンピック教育の一環として東京2020大会以降のレガシー構築を踏まえた講演会等を実施する。

【人材育成】

(1) 能力開発

ア 職層に応じた目標に基づき、意図的・計画的にOJTを実施する。

イ 教員間の相互授業参観を奨励し、自己研鑽に努める。

(2) 研修の奨励

ア 自発的な校内研修の機会を増やし、外部機関による研修への参加等の自己啓発活動も奨励する。

【募集対策活動】

(1) 募集対策の改善

ア ホームページ、ツイッター、「東京動画」等の動画投稿サイトを活用した積極的な情報発信の推進と更新頻度のさらなる向上

イ 学校見学会、説明会等の説明内容を見直し、統一化を図る。

【学校経営・組織体制】

(1) 校内情報共有の推進

ア TAIMS等を活用した情報発信、情報共有の推進を図る。

イ 組織連携の強化

ウ 分掌、学年、教科、経営企画室の相互連携を推進し組織体制の強化を進める。

(2) 危機管理の徹底

ア 個人情報管理、サービス、生徒事故等の事故未然防止に総力を挙げて取り組む。

イ 外部者の訪問管理を徹底し、安全な学習環境を確保する。

(3) 経営企画室の一層の経営参画

ア 学校経営計画達成に向け、課題指摘及び改善策の提言に努める。

イ 費用対効果の観点を持って、予算の有効活用と適切な時期の執行を徹底する。

ウ 経営計画及び予算編成指針に基づいた予算計画を策定する。

エ 安全で快適な学校環境を維持するための施

【人材育成】

《成果》

意図的・計画的なOJTはおおむね順調に進められ、若手教員の多くが着実にスキルを向上させている。授業参観も空き時間である教員の多くが努めて参加しており、その参加数は今年度飛躍的に伸びた。

将来のキャリアプラン形成については短時間ではあるが資料と講話によって啓発した。

《課題》

日常的な声掛けで育成していると考えているベテラン教員に対する意識改革が進んでいない。

【募集対策活動】

《成果》

ホームページ、ツイッター、「東京動画」等の動画投稿サイトを活用した積極的な情報発信は飛躍的に向上し、受け手の反応も良い。

《課題》

学校説明会は前年度踏襲が目立ち、大きな改善ができなかった。説明内容の見直しと運営の効率化が課題である。

入選一次募集の倍率は、女子は過去7年で最高を記録したものの、男子が伸び悩んだ。男子に向けたアピールも課題である。

【学校経営・組織体制】

《成果》

組織連携の強化により、会議時間の短縮が図られた一方で、課題に対する議論も頻繁に行われるようになり、組織改善が進んだ。

通常校内研修に加え、定期考査の紛失防止を目的とした色付き解答用紙の導入等、個人情報管理は徹底した。またサービス事故防止研修も事例を具体的に伝えることで再発防止に努め、事故0件を達成した。

経営企画室には特に予算面で経営参画を図り、校長判断に際し、適切な意見を出す組織として貢献した。また、校長の学校経営実現のため、可能な限り柔軟な対応に努めた。

《課題》

70%以上の教員が年次有給休暇を15日以上取得したのに対し、月間の超過勤務時間が100時間を超える教員も常時複数いるという結果を招いた。引き続き、ライフ・ワーク・バランス推進に尽力しなければならない。

<p>設点検、施設管理を徹底する。</p> <p>オ 分掌、学年、教科との連携強化に努め、適切な学校運営をサポートする。</p> <p>(4) ライフ・ワーク・バランスの推進</p> <p>ア 年休取得を促進し、年間15日以上の取得に努める。</p> <p>イ 時間外勤務の多い教員の業務内容を分析し、在校時間の短縮を図る。</p> <p>(5) 入学者選抜業務の適正な実施</p> <p>ア 早期から綿密な準備を進め、教職員の総力を結集し円滑かつ正確に進行する。</p>	<p>入学者選抜については毎年新たな課題が出る状況であり、今後も課題改善を踏まえて事故のないように取り組んでいく。</p>
--	---

重点項目の数値目標

目 標	平成31年度	平成30年度
1 入学者選抜一次応募倍率 1.3倍	1.29倍	1.37倍
2 私立大学（日東駒専）現役合格者数 10名	1名	2名
3 進路決定率 90%	94.6%	84.8%
4 成績不振による転退学者 0名	0名	0名
5 生徒事故件数 0件	2件	5件
6 部活動加入率 70%	57.3%	54.3%
7 ホームページ更新回数 150回	131回	111回
8 年間遅刻延べ回数 8000回	9653回	9599回
9 授業満足度肯定回答 80%	77%	69%
10 進路指導満足度肯定回答 80%	84%	79%
11 特別指導件数 10件	4件	5件
12 自転車事故 0件	2件	4件
13 四年制大学進学率 35%	34.2%	32.3%
14 学校説明会等参加者数 1200組	1230組	1040組
15 ボランティア活動への積極的な参加 20回	30回	19回
16 講習参加生徒延べ数 800名	444名	551名